

事業所における自己評価の結果（公表）

【放課後等デイサービス】

公表：令和 4年 4月 1日

事業所名 クオリティスクール

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			日によって違うため、パソコン学習の振り分けを毎日変えている。人数が多い時は学習質とパソコン室で振り分け工夫している。学習とパソコン学習に分けている。学習とパソコン学習で場所を分けている。個別学習とパソコン授業で分けて行きそれぞれ8人程入ることが出来る。
	② 職員の配置数は適切であるか	○			目の届く範囲で支援することが出来ている。 個別支援は職員に2人程度でちょうどいい。 利用者の状況によっては職員が足りない時もある。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	マンションの一室で運営している状況もありすべてをバリアフリーに対応することは難しい。トイレ当一部バリアフリー化しているが、玄関が出来ていない。エレベーターで移動できる。段差等ある。施設内はバリアフリー化されているが、出入口に段差がある。
業務 改善	④ 業務改善を図るためにPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			業務の洗い出しを行い、必要なものとそうでないものを切り分けることを第一に進めていく。送迎後、少しの時間ではあるが支援員動詞でその日の様子を話し共有している。全体でサイクルは回せていない。職員間でのみになっている。業務改善に努めている職員はいるが、職員全員に広まっているか確認していない。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			活用し支援員同士で移行等の情報を共有して改善につなげている。アンケートは共有している。定期的に行っている。アンケート等実施し改善に努めている。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			毎年公開している。 公開し、多くの人が見れるようになっていく。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			現状外部評価を受けておらず、客観的な業務改善は行うことが出来ていない。 評価に対しミーティングを行っている。
	⑧ 職員の資質向上を行うために、研修機会を確保しているか	○			研修の機会に恵まれており、年間2回以上の参加をしている。研修を行った、その都度プログラムやプリントで確認をおこなっている。研修機会を設けている。年二回以上あり。
適切 な 支 援 の 提 供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成しているか	○			子どもや保護者とミーティングし計画に取り入れている。 現場の職員が支援時に感じる課題と保護者のニーズを合わせたうえで計画を作成している。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			スタート登所より変更なく活動に取り組んでいるため、内容を全体で話し合うような機会を作ることが出来ていない。 HUGの利用で記録等をしている。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか			○	極力、スクールとしての活動内容問わずにほかの教室とのカリキュラムに参加できるように工夫をしていく。個別学習を中心に行っているので学習プログラムを考えてすすめている。職員間で立案している。もう少し、チームで考え取り組んでいけるといいと思う。活動プログラムは基本的に定められていて、内容は各カリキュラムの担当から個別に決めている。
	⑫ 活動プログラムが固定しないよう工夫しているか			○	「学習の機会」を作ることをメインに支援を行っているので細やかな設定は出来ていない。 年数回ではあるが工作教室や遠足の機会を設けている。 定期的にイベントを行っている。遠足や時計作り。コロナで満足にできていないが、今後、利用者が様々な体験が出来るようプログラムを考えていきたい。活動プログラムは基本的に定められていて、内容は各カリキュラムの担当から個別に決めている。
	⑬ 平日・休日・長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか			○	宿題のある児童は宿題を中心に進めている。児童ごとに課題を決め支援を行っているが平日、休日、長期で分けてはいない。 宿題やテスト勉強等学校に合わせ進めている。「すらら」を導入し1人1人の学習に合わせている。もっと課題を子供たちと考え課題解決に取り組めたらいい。休日、長期休暇は余暇時間が多くなってしまう。
⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか			○	個別学習を提供しているが集団活動は行っていない。個別学習、パソコンとも個別に活動を行っている。もう少し集団活動の機会があるといいと思う。事業所として個別活動を主としており、そこにニーズがある利用者様に適宜サービス計画を作成としている。	

事業所における自己評価の結果（公表）

【放課後等デイサービス】

	⑮	支援開始前には職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		分担表を作成して支援員同士内容について確認共有している。前日に役割など決まっている。必ず情報交換を行い支援の漏れが無いよう取り組んでいる。役割分担について連絡で確認しているが打合せできない日は多くある。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		送迎後の時間に支援員同士でその日気が付いたことを話し合っている。必ずではない。記録にその日の様子など記載し、振り返り出来るようになっている。終了後に打合せを行えないため情報共有出来るよう連絡のやり取りは行っている。気付いた点等を連絡で共有しているが、打合せは出来ていない。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		HUGや学習記録を活用して次の支援に繋げている。HUGを利用し、毎日記録を利用している。支援記録は必ず行っている。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的にモニタリングを行っている。定期的なモニタリングと計画の見直しを行い、支援に活用している。モニタリングは行っている。2か月に1回。定期的に実施し、現状の状況と今後の取り組み方について見直し等行うことが出来ている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○		学習とパソコンスキルが向上、工作などで検索活動の時間を設けている。学習とパソコン、モノづくりなどを組み合わせている。	
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		支援員、管理者と精通した者が参加している。学習やパソコン授業はそれぞれ適した人物が対応している。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校の先生との共有、下校時間については事業所間でも共有している。送迎時に情報共有を行っている。利用者によっては学校の様子取り組んでいることなどについて情報共有が出来るといと思う。基本的には送迎時にコミュニケーションを取っている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		事例がないが体制は取れると思う。ケアが必要な子供は今のところいない。保護者を通じて適切な対応出来るよう情報を共有している。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等の中で情報共有と相互理解に努めているか	○		相談員、サビ管、支援員とで情報共有と理解に努めている。サビ管や管理者がやり取りを行い職員へ通知している。サビ管や管理者がやり取りを行い、職員へ周知している。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	卒業の事例がない。卒業はいない。面談時において、情報を提供し、進路選択際に利用者にとって良い選択が出来ようになっている。卒業生がいた事例がない。機会が訪れた際には情報提供していく。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		スキルアップ研修の機会に恵まれている。専門機関の方を招いて研修をおこなっている。専門機関の方と連携して、研修会等を行い職員のスキルアップを図っている。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか			○	コロナ禍の為活動の機会がなかった。今のところない。実施ない。現在コロナ禍にあるため活動の機会を求めている。
	㉗	協議会等へ積極的に参加しているか	○		機会がある場合は参加している。コロナ禍で今のところない。現在コロナ禍にあるため参加できていない。	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎の際や保護者様のコミュニケーションを大切にして共通理解を図っている。送迎時にその日の様子、学習について保護者に伝えている。一日の出来事や最近の状況について情報交換しながら統一した支援が出来るように取り組んでいる。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	ペアレントトレーニングの提供は行っていない。保護者とコミュニケーションはとっている。相談は出来る範囲で行っている。保護者とは児童に関する相談が多くペアレントトレーニングまで及んでいない。
保護者への	⑳	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		見学・体験・契約時に管理者が説明を行っている。研修や見学を行っている。利用前に説明を行っている。	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や面談時に相談していただき、助言や支援を行っている。その都度対応を行っている。常に情報交換を行いながら適切な支援を行っている。	
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	コロナ禍の為提供する機会がなかった。保護者も一緒に参加できる企画が必要。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情委員会を設置して意見を活用できる体制を整えている。対応が可能になっている。職員間での情報共有等迅速にできています。必ず職員に周知した上で対策を共有し、保護者に説明し、対応している。開催する予定もあつたがコロナ禍にある為保護者間で交流できる機会を設けられていない。	

事業所における自己評価の結果（公表）

【放課後等デイサービス】

説 明 的 責 任 等	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月一回の会報のほかにHUGを通して活動予定やお知らせを書面で送ったりしている。会報誌を発行している。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○		PMSを理解して取り扱っている。 注意している。外部に漏れることがないように処理している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		特性を理解したうえで支援を行っている。フェイスシートで確認し対応している。子どもが不安にならないよう、工夫をしながら情報や意思が伝わるよう取り組んでいる。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	全教室の合同カリキュラム等で地域の方々との交流の機会を作っていくたい。コロナ禍の為機会を設けられなかった。 発表会を行っている。機会無。 ダンスや手話の発表会を開催し地域住民を招待した。
非 常 時 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		各種マニュアルを用意している。マニュアルがあり確認できる状態になっている。各マニュアルを作成し、全職員が同じ対応が出来るようになっている。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的（半年に1回）実施している。年2回避難訓練を実施している。年2回以上実施。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	○		委員会を設置して研修を行っている。虐待防止研修を行っている。研修を行い日頃の支援の仕方について振り返り適切な支援と虐待がないよう取り組んでいる。年2回以上実施。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		十分に説明をして了解を頂き計画に記載している。保護者や子どもたちに説明、了解を行っている。虐待防止研修で確認している。保護者に了解を得ている。
	④⑫	食物アレルギーの子供について、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		昼食発注時アレルギー項目がある。昼食の対応は可能である。各利用者のアレルギーを把握したうえで昼食の注文時には対応する。
④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		他の事業所とも会議で共有し支援員に情報を流している。 事例を周知し再発防止に努めている。ヒヤリハットの作成や適宜情報共有し防止に努めている。	